

<infomation>

ハチミツ・ローヤルゼリー プロポリスの専門店



〒361-0073 埼玉県行田市行田5-8
行田店 ☎048(550)4783 武州養蜂園



〒355-0328
埼玉県比企郡小川町大塚32
Tel. 0493-72-0038 (代)
Fax. 0493-74-1338



どんな小さな工事でもOK

・バリアフリー工事
・新築工事
・増築工事
何でもご相談下さい。
※見積もり無料

〒360-0641
熊谷市新堀919-12
TEL: 048-572-4686
FAX: 048-573-5776

編集・発行

NPO法人 CIL ひこうせん
〒361-0071
埼玉県行田市栄町22-5

TEL: 048-(555)-1100
FAX: 048-(555)-1301

11月のこころイベント&販売予定

10月31日(土) 行田特別支援学校の学園祭

11月 1日(日) コープフェスタ 参加(熊谷ドーム)

11月10日(火)・11日(水)

羽生イオンでの販売

11月 9日(月)~22日(日)

原宿表参道ヒルズB2

「idea Frames」にて、ギャラリーとショップ販売

編集後記

ひこうせん特集号、いかがだったでしょうか。

9月10月は世間もひこうせんも、様々な出来事が起こり、記事にする内容も充実したのになりました。しかし2009年が終わるまで、まだまだイベントが目白押しです。

私も気を引き締めて、日々を送っていききたいと思います。

編集長：大塚 則幸

ひこうせん通信

vol.37



2009年10月20日
NPO法人 CILひこうせん発行

特集

限らない挑戦 vol.3

夢の道はるべ



9月19日(土)～23日(水)、行田郷土博物館にて こころアート展第3弾『夢の道しるべ』が開催された。

今回は埼玉県を中心に、先進的にアート活動を行っている優れた作家を多く招き、レベルの高い作品を展示した。神奈川県や奈良県からも作品を集め、多くの来場者に彼らの活動を知ってもらうことが出来た。来場者は、5日間で1,000名を数え、過去3回のアート展でも最多記録となった。訪れた多くの方から好評をいただき、中には「博物館の展示の中で、ここが一番面白かった」という嬉しい感想を残してくれた方もいた。

今回のアート展によって、彼らのアート活動、ひいては将来の自立に向け未来を照らす『夢の道しるべ』の役割を担えたのではないだろうか。

次回のこころアート展は1月を予定している。更なる飛躍を目指し、ひこうせんは挑戦を続けていきたいと思う。



いざな 夢の道しるべ への誘い！！

齋藤 貴美子 (副理事長)

正規の美術教育を受けずに描かれたアートを、フランス語ではアールブリュット(生の芸術)という。ワタリウム美術館(渋谷区)でこの夏、開催されたアロイーズ展を見てきた。

アロイーズは、1886年スイス生まれ、31歳で統合失調症となり、32歳から78歳でなくなるまでの46年間で病院で過ごし、自分の精神世界を追いかけて絵を描き続け、1947年、フランスの画家、ジャン・デュビュッフェによって、その芸術性が見出され、世の人の知るところになる。アロイーズは、病院で包装紙の裏などに、絵を描き、絵を描くのに熱中する生活を送った。描かれているのは、かつて自分では叶わなかった恋愛と思える男女ばかり。色彩も赤や水色といった強烈なものである。アロイーズは描くにまかせて、自由に描かせていたときには、溢れるように描き続けたが、あまりに有名になったため、病院が、作業療法士によって、もっと上手く絵を描いてもらおうと、絵の指導をしたら、絵を描かなくなり、やがて死んでしまったという。アロイーズの絵は、アールブリュットの概念の原点に位置し、最も重要な作家として高く評価されているのである。

アロイーズのように、誰の指導も受けず、ひたすら自分の描きたいものだけを描いて、自分以外のものからの評価は全く関係なく、何物にも媚びることなく、描くということだけが、自分にとって意味のあることだと言えるような絵を描くということに対する純粋さは、描かれた絵の独創性において、他の追随を許さない。つまり、アロイーズだけが持っている世界なのであり、そこには、世俗はまったく存在しないのである。

世俗から離れ、世俗とは全く関係なく、純粋にひたすら自分の世界を描くということだけが独立して存在するようなアートは、「こころ」のメンバーが描くところの絵にも共通している。

どこから湧き出てくるのか、世俗から離れられない者からは想像もできないような不思議な世界がそこにはある。

描かれている世界への憧憬が、見る者に深い感動を与え、惹きこまれていくような絵との出会いがそこにはあるのである。

描いた人が、障がい者であるかどうかはもはや、重要な意味をなさない。目の前にあるその絵を描いたアーティストにしか描けない世界が、見る者を、アーティストの描く世界へと導くのだ。世俗のなかで生きるしかない者を、世俗とはかけ離れた夢の世界へと案内してくれるのである。

「こころ」のアーティストたちが、自己表現の方法として、描きだす1枚1枚の絵に、私たちは、世俗に浸りきった自らの精神の浄化を託すのである。

そこに、描いている当の本人には、想像もできないような、現代社会におけるビュ・アートの無限の可能性が存在し、新しい価値観の創造を予感させるのである。

政権交代によせて

どうなる、障害者のくらし

—民主党政権に望むこと—

木村浩章

8月30日の総選挙において、民主党が政権を取り、やっと、日本でも政権交代が実現された。

9月18日に鳩山政権が発足し、これまでの官僚主導からの脱却し、政治主導に転換されはじめ、無駄な予算や緊急度が低い事業を見直し、生活者重視の政策を実現しようとしている。

障害福祉の分野では、現在の福祉サービスを利用する際に原則1割の利用者負担を課す「障害者自立支援法」について、9月19日に長妻厚生労働大臣がこの障害者自立支援法の廃止を表明した。

障害者自立支援法に変わって、制度の谷間がなく、福祉サービスの利用料を利用者の払える能力に応じた「応能負担」とする「障がい者総合福祉法」(仮称)を新たに制定することが民主党のマニフェストに挙げられている。

これまでの自公政権では、ある一定の層に線を引き、その線から下にいる人を切り捨て、結果として、経済的な富裕層と貧困層の二極化が広がり、格差がうまれた。その格差が経済だけではなく、今や雇用、教育、福祉、医療等の分野にも広がり大きな社会問題になっている。

格差をなくすためには、一定水準で線を引くのではなく、線をなくし、国民一人一人がどこの地域に住んでいても地域格差がなく、誰でも自分の望む仕事に就き、自分の希望する教育が受けられ、安心して福祉サービスや医療が受けられる政策が必要である。

歩きはじめた鳩山政権は、財源や各政策の実施時期などの詳細の中身は、まだまだ不透明の部分もある。まずは、来年度の予算編成の時に、どこまで生活者重視の予算になっているかを、見極める必要がある。

常に社会的弱者と呼ばれている障害者、高齢者、子供、女性、来日外国人等のマイノリティー(少数派)の人たちの目線に立った政策や予算等の実行してもらいたいと願っている。

こころもよう (こころレポーター) 類地 亜希子 金子 昌代

こころに新しいメンバーが増えました!

10月から、こころ『創楽』に新しいメンバーが2名増えました。

杉尾みゆきさんと安野絵美さんです!

杉尾さんは、毎週木曜日、熊谷のスペースKでタロット占いのお店を出します。安野さんは、なかまの家に入り、日中は南河原の創楽でクラフト制作などの活動を行います。

新しいメンバーが増えて、こころもますます活気づいてきました。

これからよろしくお願いします!

杉尾みゆきさんからのコメント

名前は杉尾みゆきです。障害は、ウェルドニッヒホフマンです。特技は占いです。好きな飲みものは紅茶です。嫌いなものは虫(チョウチョウ)。

安野絵美さんからのコメント

ひこうせんやなかまの家にも少しずつ慣れてきました。学生の時寮に入っていたから、そのおかげかと思います。これからよろしくお願いします。

楽しいみんなの広場

9月29日(火)、爽やかな秋晴れの中、南河原の創楽で今月もみんなの広場が開かれました。

各課の連絡を順々に聞いていくと、PAGやレスパイト、生活ホームなどの課からインフルエンザについての話がたくさん出てきました。職員の一人が、自宅で飲んでいるというハーブティを持ってきてくれて、配ってくれました。私はレモンガラスという種類のお茶を飲みました。少し苦かったけど、インフルエンザ予防に効くそうです。

そして最後に、みんなが毎月楽しみにしている「こころ音楽隊」の歌の発表がありました。音楽隊全員による「小さい秋みつけた」などを聞いて盛り上がりました。美しい歌声に聴き惚れながら、みんなの広場を終えることができました。



それいゆ 可愛く模様替え♡

それいゆもオープンから、半年が経ち多くのお客様にご利用いただけるようになりました。

これからもスタッフ一同笑顔で頑張りますので、ご来店お待ちしております。

そして、今月はハロウィン! それいゆでは、季節限定ハロウィンの飾りつけをしました。

10月末まで、かわいいカボチャお化けたちがお出迎えいたします。

是非一度ご覧にいらしてください!

トピックス



堀越さんの書画作品がケアセンターさきたまの機関紙「にこっとほっと」に掲載されました!

写真中央に載っています。…が、ちょっとわかりづかいかな?

お知らせ!

大変申し訳ありませんが、スチール缶・ペットボトルの回収は終了しました。



大庭紀行

出流山満願寺

梅雨の出流山満願寺、朝起きて雨戸開けると、外は雨が降っていた。

雨だれが軒下を濡らしていた。朝食を済まして一服してから、玄関で肩からバックを下げて靴を履いていると、玄関の外に車の止まる音がした。間もなく、玄関のチャイムが鳴った。ドアを開けて外に出て見ると、アシスタントの女性が、傘を差して立っていた。

「お早うございます。今日はあいにくですわ。今日は雨が降っています」「梅雨の事だし、雨に降られてもやむを得ないよ」「そう言って頂ければ、私も少しは気が楽になります」そう言って2人は車に乗り込んだ。

いつの間にか車は行田を抜けて、羽生に入った。入って間もなく、道路の左側に内与酒蔵の煙突が見えた。その前の通りを車は左に折れた。程なく、右側に毘沙門様の森が見えた。毘沙門様を過ぎて、道路の左側に韓米の松並木があった。

「どうだね。韓米の松は」「とても風情があっていいわ。今日は雨が降っているせいか、松の葉の濃い緑がとても綺麗ですよ」

そう言っている内に、利根川の土手が見えてきた。道路は、土手に沿って上り坂になっていった。登った上の左側に、川俣関所跡があった。日光蒲狩灯の関所として、重要な役割をしていたとも言われている今、ここに残っている物といえば、三反程、積み重ねられた玉石は雑草の中にひっそりとあった。車はやがて、昭和橋を渡った。利根川は濁った薄茶色の水を叩いて、ゆったりと流れて行った。車は、国道122号線を通って群馬県へ。赤岩を抜けて、館林に入った。

入って間もなく、右側に分福茶釜でその名を知られる茂林寺が見えて来た。茂林寺の参道には、大小様々な格好をした狸の像があった。

館林を過ぎて、国道293号線を通って、佐野市内に入った。佐野といえば、ラーメンと厄除け大師で知られている所でもあった。国道293号線に別れを告げて、私達は、車は山越えに差し掛かった。木立の森の中にうっすらと細いつづら折りの道が続いていた。

それからまた少し車を走らせると、出流山満願寺の三本が見えて来た。出流山満願寺の阪東の17番札所でもあった。このお寺は、大変古いお寺で開かれたのは、天慶時代、西暦767年、今から約1200年以上も前に小堂承認によって開かれた。このお寺の守り本尊は、遍守・観世の菩薩だそうだ。

車を参門の近くの駐車場に停まった。参門の両脇には、仁王様の像があります。

「仁王様、どんな格好をしているかね?」「仁王様は、頭はツルツルで、脳天に輪の様な冠を乗せております。目は大きく、パッと見開いて、口を開けて何かに叫んでいる様な気も致します。腰巻きみたいな物を付けております」

2人は参門を潜って、寺の境内に入った。寺は木立の森に囲まれていた。人影もなく、ひっそりとしていた。ただ雨音が傘を叩いていた。何だか左側から、水音が聞こえてきた。

「あ、沢があります。沢には水が渦を巻く様にして流れております」「どうりで水音がすると思ったよ」「前に大きな杉の木があります」「そんなに大きいのかい?」「そうね、大人3人でやっと抱えられる程の太さかしら」「じゃあ、300年位経っているね」「私の想像だと恐らく、400年以上経っているのかしら」「これちょっと触って見て」「何だい、これは。その杉の太木の幹を随分正面がデコボコしているんだね」「そうね、杉の木も長い年月を重ねると、この様になるのかしらね」「そうだな、右側にもみの木があります。そのもみの木も太いのかい」「そうね。大人1人やっと抱えられる程の太さかしら。じゃあ、そのもみの木も100年位は経っているね。それ以上経っているのかしら?」「150年以上経っていると思いますよ」「まあ、美しい」「なんだい、何があるんだい?」「紅葉の木がありますよ。紅葉の緑が雨に濡れて尚一層綺麗だわ。目に染みる様ですよ」「そんなに綺麗かい?」「はい。これちょっと触ってみて」「何だい、これは。柳の枝みたいに垂れ下がっているね」「これ、紅葉の枝よ」

そうして自然を楽しみながら、左側へ少し行った所に小さな御堂があった。10段程の石段も登って太鼓橋を渡って、更に3段程の石段を登った上に、本堂があった。そこで2人は、ガラガラと鈴を鳴らしてお賽銭を上げて、両手を合わせて深々と拝んだ。

2人はお参りを済まして太鼓橋を渡った左側に、ここの守り本尊の遍守・観世の菩薩がまつられてあった。そこで2人は、線香を手向けた。この線香の煙を痛い所に当てると痛みが和らぐというので、2人とも線香の煙を浴びた。

少し降りた左側に、お札やお神籤を売っている所があった。その職員に話を聞くと、この山を登った上に奥野院があるという。せつくなので奥野院へ行ってみようかと思ったのだが、あいにくの雨で道がぬかるんでいて、足場が危ないので、残念だけれども今回は諦めた。

少し降りた所に、お稲荷さんがまつられてあった。そこでまた2人はお賽銭を上げて、両手を合わせて拝んだ。少し歩いた左側に、滝の様な流れがあった。

2人は1時間程ゆっくりと出流山満願寺へ散策をしてから、遅い昼食を摂る事にした。この辺りは蕎麦が大変有名という事もあって、2人共蕎麦を頼んだ。私は蕎麦の他に、鯉のあら湯と、熱燗のお餃子1本を頼んだ。ここで食事をしたり、休憩をとったり1時間程過ぎた。

そして土産物店でこの出流山満願寺の名物でもある蕎麦や、栃餅大福を買った。

こうして楽しい時間を過ごしてから出流山満願寺を後にし、私たちは帰路に着いた。

これで、今回の大庭紀行を終わりにする。

あつと！ キミコ

「はるけさ」という贅沢

「贅沢の条件」(岩波新書)より

齋藤 貴美子

「あなたにとって贅沢とは何ですか？」 — 贅沢はお金で買えるのか、買えない贅沢とは何か。「タイム・イズ・マネー」の呪縛にとらわれた世界にあって、「真の贅沢とは何なのか。」パブルがはじけ、「バブリーな気分が一掃された今こそ、金で買えない贅沢を考える絶好の機会」なのだそうである。

真の贅沢とは何かについて、著者山田登世子さんのお考えの片鱗をご紹介しますことにしよう。

山田さんが行き着いた真の贅沢は、「静寂の夜を濡らす月の光」であり、「タイム」でも「マネー」でもない「はるけさ」にあるのだという。「タイム」と「マネー」のあわただし時間から抜け出る時間＝「退屈」な時間をもつことだという。ドイツ語で「退屈」とはランゲバイレ、「長い時」であり、その「長い時」こそが、贅沢の条件なのだという。

「身体的にリラックスした状態の頂点が眠りだとすれば、精神的なそれは退屈である」というベンヤミンの言葉を紹介している。

手仕事や職人技のなかで作られたものこそ、贅沢品なのである。何故かと言えば、手作品には「魂」がこもるからである。生地であっても服であっても靴であってもこの事実は変わらず、魂がこもるほどの時間と精神をかけてつくられたものが贅沢品なのだ。

余談になるが、この本の中で紹介されている手仕事の話の中に、行田市の方で、私もあったことのある今はすでに他界されてしまっているが、埼玉の田島隆夫さんの織物が紹介されていて、感慨深かった。

この「魂がこもるほどの時間と精神をかけてつくられたもの」ということを考えるとき、私は、こちらも田島さんだけでなく、「なかまの家」に住む、田島隆宏さんの写真を思わずにいられない。田島さんは、たった一瞬をひたすら待って、カメラのシャッターを切る。そして、昆虫や花の世界を私たちに見せてくれているのだ。私たちが見ることのできる写真は、見るタイミングとも簡単に見ることができるが、どれくらいの「魂がこもるほどの時間と精神をかけてつくられたもの」であることか。

「こころ」で作られている「アートパフ」や「福猫」も同様である。「魂のこもった手仕事」なのである。

私たち以外の世間が、如何に「タイム」と「マネー」で呪縛されていたとしても、「魂がこもるほどの時間と精神をかけてつくられた」贅沢品を、私たちは世に出していくのだ。「タイム」と「マネー」の呪縛へのささやかな、そして大胆な挑戦をしているのである。そして、それは「タイム」と「マネー」から逃れられない人たち、もちろん私も含めて、そういう人たちに、「贅沢」を提供していることになるのである。

温故知新

木村 浩章

秋の行楽シーズン到来！

みなさんもこの秋、紅葉やグルメなどでどこかの行楽地を訪れると思う。

今年は、週末に高速道路が1000円になり、気軽に出かけられるようになった。

以前は、障害者がどこかに行くのも、トイレやスロープ等のバリアフリーの状況を事前に調べないと行けなかった。しかし、現在では、多くの駅やサービスエリア等の公共施設はバリアフリーが進み、気軽に外出が出来るようになった。

私が住んでいる行田市は、日本最大級の円墳等がある「さきたま古墳群」や豊臣秀吉が唯一落とせなかった「忍城」等の史跡・旧跡が多く市内に存在している。特に「忍城」は、石田三成による水攻めの様子を描いた時代小説「のぼうの城」が人気になり、映画化が決定されている。

このような史跡・旧跡がありながら、行政も市民もあまり観光に力を入れなかった。また、行田市は、交通アクセスも悪く、バリアフリーも残念ながら進んでいるとは言えない状況である。

これからの行田市は、「観光」で街の活性化を図ることを通して、どうバリアフリーの観光地にするか、その中で障害者の新しい就労の場をつくり出すかをこれからの私の仕事の一つにしたいと考えている。

★各部署からの連絡★

21年度後期の 重度訪問従事者研修を行います

ヘルパーの資格は持ってないけど障害者のお世話をしたい方！

この研修を受けて、ひこうせんで働いてみませんか？

日程は11月8日・15日・22日です。

お申し込みは

PAG 田中ひろみ

PAK 石井健吾

まで

電話：048-564-6644

(PAG)

スペースKにて杉尾みゆきさんの 占いコーナー！

10月から杉尾みゆきさんがスペースKでタロット占いのお店を開いています！

今後、それいゆやうきしろ咲蔵でも占いコーナーを行う予定もあります。みなさんもぜひ一度占ってもらってみたいはいかがでしょうか？

内容：恋愛/結婚/相性/健康/仕事/金運/進路/将来/対人関係

金額：500円/1000円/1500円です。

時間：12:00～16:00

曜日：木曜日



2009.11.9(MON)~22(SUN)
motesando hills pure art COCORO



表参道ヒルズ

西館 B 2 F idea Frames

営業時間 11:00~21:00 (日曜~20:00)

T 150-0001 東京都渋谷区神宮前4丁目12番10号

TEL: 03-5410-1270

■地下鉄をご利用の場合

東京メトロ銀座線、千代田線、半蔵門線

「表参道駅」A2出口より徒歩2分

東京メトロ千代田線、副都心線

「明治神宮前駅」5出口より徒歩3分

■JRをご利用の場合

JR山手線「原宿駅」表参道口より徒歩7分

こころのグッズを表参道で販売します！

11/9~20まで、原宿表参道ヒルズB2 イデア・インターナショナルのお店のスペースで、ギャラリーとアートクラフトの販売を行います。

アートは、創楽の作家の作品を展示し、ついにメジャーデビューをします、ご期待ください。クラフトについては、表参道ヒルズに溢れている、いわゆる高級ブランド品とは一線を隔した作家の手作りクラフトとして差別化して勝負したいと思っています。

また、創楽オリジナルのリサイクル材料を使った作品は、環境問題が世界的に問われている中で、もっと積極的に世の中にアピールしてゆこうと考え、「r・m クラフト=リ・マテリアルクラフト」と名づけました。こちらまた新しい販路につながればと考えています。2週間という長い期間、しかも今、世界中から注目されている「原宿」というおしゃれな場所でのお店ですので、みなさまも応援してくださいね。

新しいアートパフです！

トレンドやデザイン、制作の工程、原価、販売場所の価格帯などを考え、新しく開発しました。原宿以降、行田周辺でも販売しますので、お楽しみに！



NPPO法人 CIL ひこうせん
お問い合わせ先 行田市栄町二二五
TEL: 048-555-1100 FAX: 048-555-1101

後援 埼玉県 行田市 行田市社会福祉協議会 行田市教育委員会
行田市障害者小規模施設連絡会

第6回ひこうせんシンポジウム

ボーダレスな街 行田をつくろう！ やさしさルネッサンス

いま、社会に必要なものは「やさしさ」
「人にやさしい人づくり」「人を差別しない人づくり」を目指す教育ってなんだろう？

● 講演 ●

稲葉 喜徳氏 埼玉大学 教育学部 教授
『教育に希望を託す社会を』

金 政玉氏 DPI 日本会議 権利擁護センター 所長
『差別をしない国・人づくり』

更に詳細はひこうせんまで
お問い合わせください！

パネリスト

小田原 道也氏

(川口市障害者生活支援センター「ねこのて」相談支援専門員)

金 政玉氏

(DPI 日本会議 権利擁護センター 所長)

山口 平八氏

(社会福祉法人 さくら会 理事長)

山中 正志氏

(行田市教育センター 副所長)

木村 浩章氏

(NPPO 法人 CIL ひこうせん 理事長)

2009年11月28日(土)

13:00~17:00(受付 12:30 から)

参加費: 500円(資料費込)

忍行田公民館 ホール

当日プログラム

13:00	シンポジウム開会
13:00~13:10	理事長挨拶
13:10~14:00	講演① 稲葉 喜徳氏
14:00~14:10	ピアノ演奏 間庭真美氏
14:10~15:00	講演② 金 政玉氏
15:00~15:20	20分休憩
15:20~16:40	パネルディスカッション
16:40~16:50	講評 金 政玉氏
16:50	シンポジウム閉会